

第1班

建設業の必要性

大豊建設(株) 安良岡 真一
飛鳥建設(株) 染谷 和俊
東亜建設工業(株) 宮崎 城太郎

東洋建設(株) 山田 昭洋
日本舗道(株) 梶原 寛

現状での
問題

(イメージが悪い)

工事中 ・うるさい(振動・騒音等)
・税金の無駄使い

工事後 ・物は出来たが利用しづらい(通行料金等)

自分達が感じていること

- ・喜んでもらえることが少ない
- ・良い物を創ったという満足感はあるが人から社会から感謝されているのか?



本当に社会に貢献しているのだから? ニーズがあるのか? 地域住民の満足は?

- (例) 良い点 ・トンネル1本で暮らしが便利になった → 地域のニーズに合致
・海の魚礁をつくって魚が戻ってきた
- (例) 悪い点 ・下水道工事で住民から「この下水は、本当に必要な?」と問われた

答えられなかった

役所、請負者が説明不足
住民側の無関心(現在の生活に不便さを感じない)

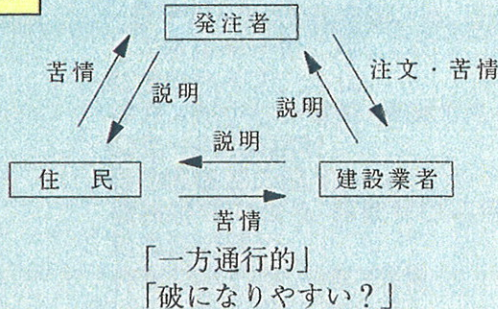
解決策

工事が出るときに「この工事は必要なのか?」「適正なのか?」判断するような第3者的な機関があり必要性を評価できれば・・・。

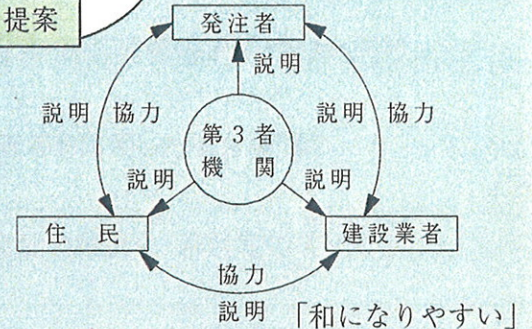
本当に必要な工事

建設業者が自信、誇りを持って工事が出来る
住民の理解を得られやすい

現状



提案



機電職員のアプローチ

例えば現場においては
機械・設備における改善策の提案・取組み

問題(振動・騒音等)に対しての
機械的改善・工法の開発を目指す

機電職員の役割

